

器具を正しく安全にご使用いただくために大事なこと

1. 新品の器具を初めて使用する前に行う作業 ～器具に付着している工業用油を除去する～

作業方法は裏面をご確認ください

新品の器具は、保護を目的に少量の工業用油がついた状態で出荷されています。

この油は、通常の洗浄作業では除去できません。そのため新品の器具を初めて使用する際には **油抜き作業** をする必要があります。（滅菌しない場合、油抜き作業は不要です）

※油抜き作業を行わず、油が残留した状態で高圧蒸気滅菌を行うと器具が変色し劣化します。（熱変性の発生）
熱変性は、器具の寿命を著しく縮め、破損の危険が生じます。

2. 器具の日常メンテナンス ～器具の状態を把握し適切なメンテナンスを行う～

器具に使用されているステンレス鋼は、耐食性に優れていますが、様々な条件により劣化が進みます。

ステンレス鋼は、錆にくい金属ですが状態によって錆が発生します。錆の発生が器具の劣化に繋がるため注意が必要です。

器具を安全にご使用いただくために下記の点に注意して、洗浄・消毒・滅菌を行ってください。

- アルカリ性または酸性の強い薬品や洗浄剤等は、ステンレス鋼の表面を傷つけ錆の原因につながります。
薬品や洗浄剤等は中性のものを使用することをおすすめします。
- 器具は湿気を嫌います。使用後は直ちに洗浄し十分に乾燥させてください。
- 一つの器具から発生した錆が他の器具に移ります。
もらい錆を防ぐため、錆びた器具は専用の洗浄剤等を使用し直ちに錆の除去を行ってください。
- 器具の可動部の動きを滑らかにするには医療用水溶性潤滑油の使用が必須です。
この潤滑油には防錆効果も期待できます。洗浄後、毎回注油してください。

器具の安全性を保つために、器具の動作確認を含むメンテナンスは使用前後に必ず行ってください。

（日常の洗浄・消毒・滅菌については下記ガイドライン等をご確認ください）

【参考】 ・厚生労働省HP ・医療現場における滅菌保証のガイドライン2021（2021年）
・医療現場における滅菌保証のための施設評価ツールVer.1.1 ・洗浄評価判定ガイドライン（2012年）
・鋼製小物の洗浄ガイドライン2004（2004年）

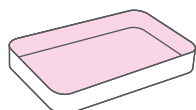
※この資料は、鋼製手術器械を初めて扱う方向けの資料になります。



新品の器具を初めて使用する前に行う作業

器具に付着している工業用油を除去する(簡易油抜き)

ご用意
頂くもの



器具が入る容器



スポンジ



ブラシ



専用の中性洗剤

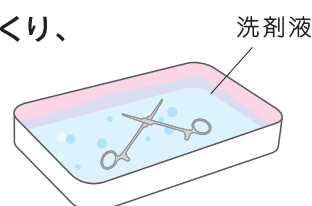


洗剤の参考例

1

40℃程度のお湯に、専用の中性洗剤を入れた洗剤液をつくり、
新品の器具をできるだけ開いた状態で、
30分程浸漬してください。

※ご使用になる洗剤の使用方法に従ってください。



2

1の浸漬後、中性洗剤をつけたスポンジやブラシで擦り洗いした後、
流水でよくすすいで(図1)ください。器具の可動部分やネジ部、関節部分や
図2の○部分は、特に念入りに洗ってください。擦り洗いは2回行うと効果的です。
洗浄後は、速やかに器具の水分をよく拭き取り、十分に乾燥させてください。

「超音波洗浄器」をお持ちの場合は、
擦り洗い2回終了後、超音波洗浄
を行うとより効果的です。

【例】水1Lに対し、「スーパーLM-CAE」を20mlと「メタルケア」20mlを加えた溶液に器具を入れ超音波洗浄してください。その後、水で洗い製品の水分をよく拭き取り、十分に乾燥させてください。



図1

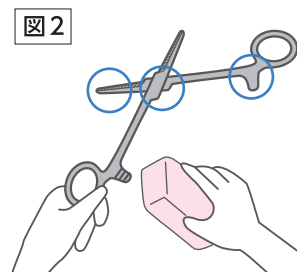


図2

3

器具の可動部分やネジ部、関節部分に
医療用水溶性潤滑油を注油してください。



4

滅菌処理(高圧蒸気滅菌)を行ってください。

1～4の作業を行うと、器具の耐食性が向上します。

※上記は簡易油抜き方法です。専門スタッフや設備がない場合の参考にしてください。

※器具を滅菌しない場合、上記の作業は不要です。

※既定のガイドラインがある場合は、そちらに従ってください。

※変色や錆、熱ヤケが起きた場合は、専用の薬剤やワイヤーブラシ等で落としてから、再度1～4を行ってください。